

### 4. 3 未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

#### 1) 今後の投資についての考え方・検討状況

##### (1) 広域化・共同化・最適化に関する事項

平成29年度時点の大和郡山市における普及率は95.1%であり、今後とも未普及地域の解消事業を継続するとともに、処理区域内にあつては合併処理浄化槽や単独処理浄化槽の公共下水道への接続促進に努める。

更には、管きよの更新時において管径の規模を適正化（ダウンサイズ等）すること等が挙げられる。

##### (2) 投資の平準化に関する事項

過去には昭和60年代から平成16年頃までの約20年の間に建設投資を行ってきたが、今後はマンホールポンプの更新やメンテナンス等が発生してくる見通しである。管きよに関しては耐用年数が50年～75年が目安となっているため、当面は未だ更新する時期とはならないが、ストックマネジメントによる管内面調査などを実施して、劣化状況に応じて更新時期を前倒し、または後倒しするなど平準化を図っていく。

##### (3) 民間活力の活用に関する事項（PPP/PFIなど）

近年において、計画・設計・調査・施工等について包括的に民間企業に委託する事例もあるので、導入の可否、効果等について検討する。

##### (4) その他の取組

今後更新を行っていく中で、管きよのルートやマンホールポンプの配置を見直すなどして、更新費用、維持管理費用の低減について検討する。

#### 2) 今後の財源についての考え方・検討状況

##### (1) 使用料の見直しに関する事項

財政・収支計画に基づき、将来必要となる更新投資額について市民への説明を行って理解を得るとともに、具体的な料金改定時期、改定率について決定する。

##### (2) 資産活用による収入増加の取組について

本市の下水道資産の約9割が管きよに関する資産であり他は郡山ポンプ場を有するが、土地の有効活用等の資産活用できる範囲は小さいものの、引き続き情報を収集する。

##### (3) その他の取組

水洗化促進のための取組みを継続し、他事業体における取組みについても情報収集して、水洗化率の向上を図り、収入増加に繋げる。

### 3) 投資以外の経費についての考え方・検討状況

#### (1) 民間活力の活用に関する事項

現在委託している業務以外にも、個々の維持管理案件ごとに効率的な委託の可能性を模索していく。

#### (2) 職員給与費に関する事項

本計画中には現状程度の職員数を維持するものとしているが、将来においては技術継承や非常時体制の確保、民間委託費との兼ね合いも考慮しつつ、適正な職員数・給与費を検討する。

#### (3) 動力費に関する事項

ポンプの更新時にはトップランナーモデルを採用するなど、動力費の削減に取り組む。

#### (4) 薬品費に関する事項

大和郡山市は汚水処理場を有していないので薬品費は要していない。

#### (5) 修繕費に関する事項

本計画では現状程度の維持管理費を将来においても計上しているが、修繕費を増加させることにより建設改良費が低減できる、逆に建設改良費を増加させて修繕費を低減するなど、長期的にコストが最適化できるような投資方法を検討する。

#### (6) 委託費に関する事項

既に行っている民間委託業務についても委託業務内容等の精査を行い、更なる効率化や合理化による経費の節減を検討する。

#### (7) その他の取組

特になし。